

雲南中華世界の膨張、絶え間なく移住する人々ー石屏県とプーアル茶を巡る歴史の中で

西川 和孝

① 石屏県の概要

雲南省石屏県は、雲南省紅河ハニ族イ族自治州に属し、雲南省の省都昆明より南へ約二五〇キロ下った地点に位置する。



図 1 雲南省全体図

典拠：譚其驤主編 1982『中国歴史地図集』清時期、地圖出版社を参考に作成。

石屏県は、雲南省から貴州省へ広がる雲貴高原の南縁部にあたり、西は元江を挟んで哀牢山脈が横たわる起伏に富んだ土地であり、実に県の約九五パーセントが山地によって占められている。残りの約五パーセントが石屏盆地を中心とした平地部分である。

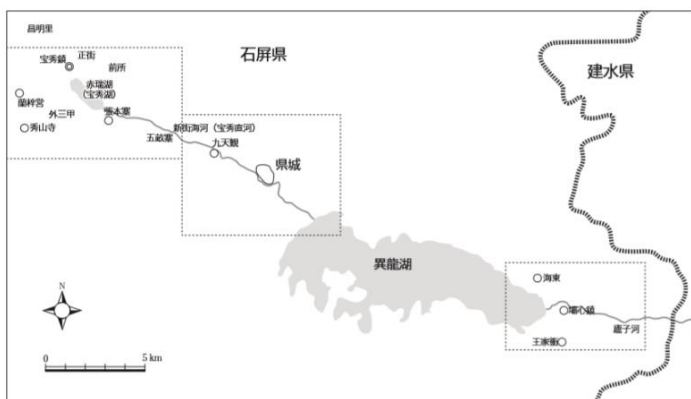


図 2 石屏盆地図

典拠：雲南省測繪局編印 1990 年『石屏盆地図』を参考に作成

石屏盆地の耕地開発は、西方の宝秀湖（赤瑞湖）周辺部、中部の県城周辺、東方の異龍湖東岸の大きく分類される。盆地自体は西から東に向かって緩く傾斜しているため、盆地の水が集まり、隣接する建水県に向かって流れ出る異龍湖東岸では、水の滞留が起こりやすく、しばしば洪水や淹水に苛まれた。

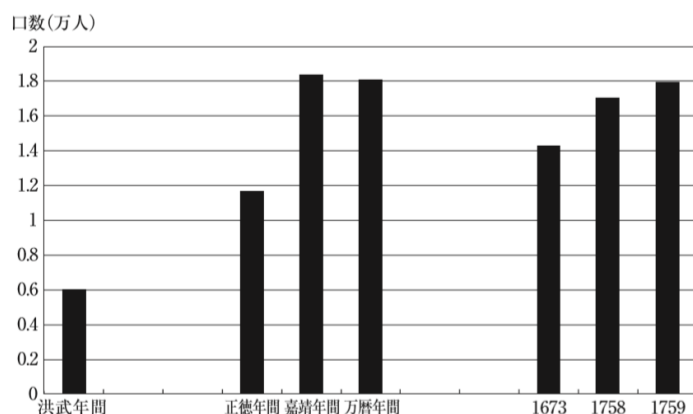


異龍湖東岸から異龍湖を望む風景



石屏の県城内の様子

② 石屏盆地における人口増加と飽和状態



グラフ I 雲南石屏人口変遷 (1398-1759)

明代後半の万暦年間（17 世紀初頭）には、石屏の人口はすでに頭打ちとなり、土地資源の開発も限界に近づきつつあった。そこで、石屏の人々は次第に外の世界に発展を模索するようになる。



図 3 石屏漢人の移住経路

典拠：譚其驤主編 1982 『中国歴史地図集』清時期を参考に作成。

16 世紀から 17 世紀にかけて石屏の人々は、周辺地域を中心に積極的に移住活動を開始。移住活動の範囲は、広く雲南南部全域にわたった。とりわけ普洱茶の栽培と鉱山開発において秀でた能力を発揮した。

③ 普洱府における茶栽培

当初、石屏漢人は、六大茶山の中でも南部に位置する漫撒に入植した。後に茶栽培に優れた能力を発揮した石屏の人々は易武にも活動地域を広げ、当該地域の茶栽培を一手に担うようになった。



図4 普洱の六大茶山



乾燥させている普洱茶（易武）



易武周辺に広がる茶畑



易武の旧石屏会館跡